

## 第4回浜松地区大学再編・地域未来創造会議議事録

開催日時：2022年7月5日（火）10:30～12:00

開催場所：浜松市役所庁議室

出席者：・浜松市長	鈴木 康友
・浜松いわた信用金庫会長	御室 健一郎
・公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構 フォトンバレーセンター長	伊東 幸宏
・公益財団法人浜松地域イノベーション推進機構 次世代自動車センター長	望月 英二
・国立大学法人静岡大学学長	日詰 一幸
・国立大学法人浜松医科大学学長	今野 弘之

報道：6社

---

### 次第

- 1 開会
  - 2 市長あいさつ
  - 3 議事
    - (1) 法人統合・大学再編に向けた状況及び今後について
    - (2) 浜松市のスタートアップ施策について  
(浜松市産業部スタートアップ推進担当)
    - (3) 意見交換
  - 4 その他
  - 5 閉会
-

## 1 開会

(事務局（浜松市企画調整部長）)

ただいまから、第4回浜松地区大学再編・地域未来創造会議を開会いたします。

本日の出席者につきましては、次第の次にあります出席者名簿のとおりでございます。  
なお、太田康隆浜松市議会議長、斉藤薫浜松商工会議所会頭、滝浪實浜松市医師会長は欠席でございます。

それでは、会議の開催にあたりまして、浜松市長からごあいさつ申し上げます。

## 2 市長あいさつ

(浜松市長)

それでは、両学長をはじめ、委員の皆様には大変ご多用の中、第4回となります浜松地区大学再編・地域未来創造会議にご参加をいただきまして誠にありがとうございます。

この会議につきましては、2020年10月に設置をいたしまして、これまで法人統合・大学再編あるいは浜松地域の未来につきまして、3回の議論を行ってまいりました。この間、両大学の統合・再編スケジュールの延期の発表もありましたが、前回の会議において、両学長から統合・再編の方向性は変わっていないとのご説明をいただき一安心した次第でございます。大学と地域の未来に向けた産学官金の連携強化等の取組について、本市の連携事例を説明し、意見交換を行いました。

本日は、まずは両学長から法人統合・大学再編の現状と今後についてご説明いただきまして、その後、統合・再編と深く関わりのあるスタートアップ施策について浜松市の取組をご説明しました後、意見交換をいたします。

限られた時間ではありますけれども、皆様それぞれの立場から、忌憚のないご意見を賜りますことをお願い申し上げます。

よろしく申し上げます。

## 3 議事

### (1) 法人統合・大学再編に向けた状況及び今後について

(事務局（浜松市企画調整部長）)

それでは、お手元の次第に従いまして進めさせていただきます。

それでは、本日の議事に移ります。ここからの進行は、座長であります浜松市長にお願いいたします。

(浜松市長)

まずは、法人統合・大学再編に向けた状況及び今後につきまして、両学長からお話をい

ただきたいと思います。

まずは日詰学長からお願い申し上げます。よろしくお願いいたします。

(静岡大学学長)

皆様、おはようございます。静岡大学の日詰でございます。本日、資料をご提示できず申し訳ありません。

昨年7月30日に第3回目の会議が開催されまして、その後、私自身が、基本的にこの法人統合・大学再編に向けての合意書を尊重するという発言の中にあっても、その方向性について明確に何も言っていないということに対して、いろいろなご批判を賜ってまいりました。私としましては、学内並びに地域の様々なステークホルダーの方々、つまり、様々な異なる見解を持つ方々との対話を進めてくる中で、どのような方向性に向かわなければならないのか熟慮してまいりました。そういう状況の中にあって、今年5月になりましてから、トップ会談ということで今野学長と膝詰めの意見交換をこれまで2回行いました。私の現時点での思いは伝えさせていただいておりますが、当然、私の思いと今野学長並びに浜松医科大学の方向性、思いがまだ十分に歩み寄るところまでは至っておりません。今日はせっかくお招きいただいているため、ひとまず、私自身が今到達した思いを述べさせていただきます。そういう責務があると思っております、そのことをまず最初にお伝えさせていただこうと思います。

基本的に静岡大学が抱えている現状を考えると今野学長とも話しているところではありますし、今野学長も同じ見解と思っておりますが、やはり、18歳人口が、今、減少していて、それに伴って大学進学者数が減少してきている。18歳人口のことで言えば、かつて120万人いた人口が約20年後には88万人になり、2050年になると80万人になります。今後数十年の間で40万人ほど減っていく。併せて、大学進学者数も83万人であったものが、2040年には50万人となり、2050年になると40万人になっていくということで、非常に大きな減少が起こるわけです。こういう状況の中で、非常に厳しい環境、状況を生き抜くには、静岡大学として、今のままでいくということはありません。したがって、競争力、国内も同様ですし、海外に向けても同様であります、そういった競争力を持った大学になることが必要であると考えております。そのため、現状に留まることは不可能であり、大学改革を前進させることが不可欠と考えております。力がある大学では、10兆円ファンドを使って国際卓越研究大学に申請するというところもあるわけですが、私どもの大学では、そこまでは無理と考えております。とはいえ、何らかの形で生き抜く策を講じなければならないと思っております。本学にとって一番大きな改革を行っていくための前提としましては、スケールメリットを追求することが重要であると思っております。その際に、非常に重要なパートナーとして浜松医科大学がいるということです。この2つの大学が静岡県における国立大学として、連携協力し、一つになっていくことが必要ではないかと思っております。現在、法人統合・大学再編の検討が進められているわけではあります、真に

競争力のある大学を創っていくためには、両大学が一つになっていく。つまり、一つの大きな大学になっていくことが必要であると考えております。静岡大学の将来を考えていきますと、これから迎えることが想定される非常に厳しい状況を乗り越えて、生き残りを図るために、法人統合・大学再編がありますが、それを更に進めた上で、例えば、両大学の大学統合を行うことも将来的には選択としてあり得ると考えております。そして、競争力のある今より大きな総合大学を目指すことが本学にとっても生き残りの上では、極めて重要な課題と考えております。大学統合を行い、THE 世界大学ランキングを現在の4桁台から3桁台、つまり例えば800位から700位の間を目指すなど、国際競争力のある大学を目指して教育研究力を高めていくと、それと同時にそれを基にして地域貢献を行っていくことが大切と考えております。

以上のような将来像を描く中で、まず取り組むべきことは法人統合ではないかと考えております。両大学のシステムやルールを統一化しまして、業務や予算の効率化を図ります。そして、統合して生み出される果実を戦略的に教育、研究に投入していく。統合して明らかにしたものを見極めた中で、同時に機能強化策を図らなければなりません。その機能強化策の中に、大学統合もあるが、もう一つは法人の統合と大学再編、つまり大学再編と考えております。したがって、まずは、法人統合し、その後、大学統合ないしは大学再編を目指して検討を進めていくことが必要と考えております。つまり、大学統合か大学再編かという選択の他に、教育未来創造会議でも学部の再編や新学部の設置が議論されております。したがって、様々な可能性を見据えまして、両大学が一体となって大学改革を進めていくことが必要ではないかと考えております。静岡県の国立大学といたしまして地域貢献に努めるとともに、国や地域から必要とされる教育研究を進めるだけでなく、特定の研究分野で日本ないしは世界と戦っていけるような大学を目指して、法人全体の教育研究推進を引き上げていくことが必要と考えております。

この考え方は今野学長が受け入れられるものではないし、浜松医科大学の現状では受け入れられるものではないと理解しておりますが、私自身の考え方として、こういう方向性もあるということをお話させていただいております。いずれにしても、大学再編という選択肢を捨てておりません。むしろ将来的な方向性として、将来的な大学統合を目指す一つの過程としてそれを考えていくと思っております。以上のような形の中で、これからいろいろな調整を図っていかねばならないわけではありますが、私としても静岡大学や地域のステークホルダーの皆様との意見交換が欠かせないものになっておりまして、これからも努めていきたいと思っております。今日、あえてそれらを図式化することは私案を超えることになるため、資料としてお配りしてはおりませんが、私の考え方は以上でございます。

(浜松市長)

それでは、続きまして、今野学長からお願いいたします。

(浜松医科大学学長)

浜松医大の今野でございます。第4回浜松地区大学再編・地域未来創造会議の開催、誠にありがとうございます。先に日詰学長から法人統合・大学再編や今後の方向性についてお考えの説明があったわけでありますが、私からは、提出した資料に基づき、改めて統合・再編の経緯と取組、本学の目指す今後の展開と課題を述べたいと思います。

2019年3月に両大学の機関合意として、国立大学法人静岡国立大学機構設立及び大学再編に関する合意書、確認書が締結されました。2020年10月に現学長の日詰氏が選出され、その際の学長選考会議では、「法人統合・大学再編に関する合意書を尊重し、対応していくことを期待する。」との附記事項とともに、新学長からも合意書を尊重するとの見解が示され、私たちはとても安堵いたしました。しかし、当初の予定では、2022年度つまり今年度に学生の受入を開始することとなっておりますが、静岡キャンパスなどの同意が得られず、残念ながら実現しておりません。すでに最短でも2年遅れることになるため、地域が期待する新たな大学の創設を1日でも早く実現したいというのが素直な思いであります。

地域との関係につきまして、整理いたしました。資料左側が浜松市、右側が静岡市であり、それぞれに法人統合・大学再編を検討する会議が設置されました。浜松市では、鈴木康友市長のご尽力により当会議を2020年10月に設置していただきまして、今回が4回目の開催となります。これまでも浜松地区新大学と地域との関わりを中心にご議論いただき、「行政をはじめ、地域の経済界、医学界などオール浜松で統合・再編を応援していきたい。」「統合・再編が地域の発展に多大に資するものと期待している。」など、統合・再編を支援、後押しいただくコメントを数多く頂戴しています。前回の会議では、日詰学長が初めて出席され、統合・再編をさらに充実、発展した改革とするために、新学部を構想していることなど、統合・再編をよりよいものとするために時間が必要であるなどの説明がありました。本学からは医工情報融合による成果を具現化するための構想として次世代創造医工情報教育センター設置構想を説明いたしました。これらの説明を受け、前回は座長より、「統合・再編の基本的な方針は変更されていないことを確認し、安心した。」と会議のまとめをいただいたと承知しています。

一方、静岡市では、2020年1月から法人統合・大学再編等について、ゼロベースでの議論を行う旨の静岡大学将来構想協議会が計6回開催されまして、元文部科学省大臣官房審議官の玉上氏なども参加したワーキンググループも5回開催され、静岡大学の将来構想が検討されたと承知しております。2021年3月に公表されたまとめでは、教育、国際化推進、大学間連携、地域連携・産学連携の4つの視点から7項目が提言されております。この後、この提言のフォローアップのための会議として、静岡大学将来構想推進会議が2022年2月に設置され、静岡大学新学部に期待することを公表し、終了しております。しかしながら、これまでの静岡市の会議でまとめられた提言等では、統合・再編についての言及や記載は私の知る限りでは、残念ながら全くありませんでした。

次に、本学が地方創生を主体的に担う地域中核大学として、文部科学省や内閣府から支

援をいただいている取組について、ご説明いたします。

1つ目は、前回会議で構想を発表いたしました次世代創造医工情報教育センターです。おかげさまで、文部科学省と内閣府から多額のご支援をいただけることになり、次世代創造医工情報教育センターが実現するはこびとなりました。センターでは、医工情報連携で医療分野に新たな価値創造を生み出す組織として、人材育成や医療分野でのデジタル・トランスフォーメーション（DX）の推進等を目指しており、既に今年度4月から活動を開始しております。他では類を見ない医学部でのアントレプレナーシップ教育を実施し、地域のスタートアップ企業の代表や起業経験を持つ医師を招いた授業や、起業、製品開発を視野に入れたゼミの開催、学生を対象としたアイデアコンテストを主催する等、チャレンジマインドにあふれ、新しい視点で課題解決に積極的に取り組む医療人を育成するとともに、学生らの若い発想力を活かした新たな医療機器、医療システムの開発など大学、病院発のベンチャーの創出に寄与いたします。さらに、静岡大学浜松キャンパスと連携し、静岡大学浜松キャンパス100周年記念事業に併せて異分野連携シンポジウムを開催します。研究交流のみならず、現在検討中の浜松地区新大学の将来構想の紹介も予定しております。

2つ目の取組は、国立大学法人としては日本初の試みである産学官連携部門の外部法人化です。大型の共同研究を実施するに当たっては、大学ごとの契約が必要となる等問題を含んでおり、3者あるいは4者の共同研究に際しては契約も煩雑となります。特に健康医療機器は多くの要素、技術が集約される複合体であり、多数の研究開発チームにより、共同開発が必要となります。この問題を解決し、円滑に大型の共同研究を進めるには、産学官連携部門の外部法人化が必須となると考えております。現在、有識者会議等で発足に向けた構想を具体化しているところであります。これらの2つの取組を核として、他大学や自治体など地域連携の更なる強化を図りたいと考えております。この後、浜松市から産学連携のスタートアップのご紹介があるかと思いますが、このような本学独自の取組は地域の行政、産業界との連携を前提といたしております。更には新たな浜松地区大学の誕生により、knowledge Hubとしての役割が質、量共に飛躍的に向上することが期待されます。

最後に、法人統合・大学再編の進展と今後についての工程感を私見ですが述べさせていただきます。2020年度より本学主導により、静岡キャンパスの各学部との研究情報交換会を定期的で開催いたしました。どの学部においても医学との親和性の高さが改めて確認され、今後、新法人の下で連携する両地区大学の幅広い可能性が示されました。また、統合・再編を前提とした静岡地区の新大学を検討する静岡キャンパスを中心とした会議が2年7か月ぶりに再開され、統合・再編へ一歩進んだものと理解しております。しかし、最初に説明したとおり、構想の実現がすでに2年遅れており、地域も期待する新大学を1日でも早く設立するために早急に統合・再編の議論を進めなければならないところであります。合意書締結以降200回を超える会議を開催し、統合・再編の中身を検討してきたところですが、静岡大学が統合・再編に対する方針を明確にお示しにならないことは両大学から憂慮する声が上がっていることは事実であります。

8月下旬には、静岡キャンパスにグローバル共創科学部（仮称）設置が認可される予定と聞いております。この新学部は静岡市に大きく貢献し、当学部で養成された人材は地域に新たな価値を創成、地域に活力を生み出す存在になると理解しております。日誥学長ら関係者のご尽力に、心から敬意を表する次第です。

そして、この成果は、次のステップへと移る契機となるものと理解しております。すなわち次は、浜松地区において、浜松地区新大学の設立を早期に実現させ、浜松地区における国立大学法人としての地域貢献を十全に行う責務があります。今年度、島根大学、広島大学、徳島大学の3大学が認定を受けた、魅力ある地方大学の実現に資する地方国立大学の定員増について、18歳人口の減少の中で本県の県外流出状況を踏まえれば、静岡県こそ、この定員増の制度を活用しなければならないものであり、地方創生、地域活性化の絶好のチャンスであります。浜松地区において、定員増による新学部の創設を実現させることができれば、医学、工学、情報学が融合した社会や産業界に直接コミットする新たな学際的な学部となり、例えば、高い理数系の学力を有していながら、理工系学部を選択しない女子学生、いわゆる「リケジョ」等に対して、絶好のアピールになると思っております。

再編統合に関わる最後のコメントになりますが、世界と勝負していける特色、競争力を持ち、付加価値を有する2つの新大学を創成し、DXによる産業変革、地域課題解決に資する人材を養成することが重要だと考えております。5学部を持つ総合知に優れた強みを持つ静岡地区大学とSociety5.0を牽引し、Society6.0を目指す浜松地区大学は何より中学生や高校生に夢を与え、未来に希望を持つ若者の理想的な修学の間となると思っております。以上です。

### 3 議事

#### (2) 浜松市のスタートアップ施策について

(浜松市長)

ありがとうございました。ご意見、ご質問につきましては、後ほど、意見交換の際にまとめてお願いをしたいと思います。続いて、議事の2、浜松市のスタートアップ施策について、事務局から説明をお願いいたします。

(浜松市産業部スタートアップ推進担当部長)

それでは、資料に基づき、浜松市のスタートアップ施策について、ご説明をさせていただきます。浜松市では浜松バレー構想を掲げ、スタートアップが生まれ、育ち、集まる都市、エコシステムの構築を目指してスタートアップ施策に取り組んでいます。

2ページ目をご覧ください。浜松市のスタートアップ推進事業について、一覧に示してございます。起業前、シード、アーリー、ミドル、レイター、スタートアップのステージに応じて必要な支援が受けられるよう、様々な支援策を展開しております。本日は、この中

で真ん中、右上にございます、ファンドサポート事業、実証実験サポート事業についてご説明をさせていただきます。

3 ページ目をご覧ください。ファンドサポート事業についてご説明を致します。ベンチャーキャピタル、そして、ベンチャーキャピタルからの投資は、大部分が首都圏に集中しております。浜松にしながら、スタートアップが資金調達しやすい環境を整えることを目的として浜松市がベンチャーキャピタルと協調し、市内スタートアップの事業化を支援するものでございます。具体的には、浜松市がベンチャーキャピタルを認定し、その認定したベンチャーキャピタルが、市内のスタートアップに投資をした場合に、市としても交付金を交付するというものです。現在、この認定ベンチャーキャピタルは41に上っております。これまでは申請枠を区切っていなかったのですが、今年度から3つの申請枠を設けております。創業5年以内を対象とするシード R&D 枠、アーリー・ミドルを対象とする一般枠、そして本事業での採択実績があり、市内企業との協業を行うスタートアップを対象とする協業枠です。こちらもステージに応じて、活用いただけるような構成としております。

次のページをご覧ください。実証実験サポート事業です。浜松市の豊かな自然・都市環境を活用し、スタートアップの実証実験を全面的にサポートするという事業です。サポート内容としては実証フィールドの提供や実験モニターの募集、地元住民や関係機関との調整、経費支援など多岐に渡っております。事業の実施に際しては、市が直面している課題、解決したい課題を提示し、それらに対してスタートアップから提案をいただくという形をとっております。また、今年度からは、トライアル発注認定事業というものを行っております。こちらは、浜松市が認定をする新商品・新サービスを市が優先導入するという制度です。実証から自走へこうした事業も活用いただきながら、市としては社会課題の解決や地域経済の活性化につなげていきたいと考えております。

5 ページ以降は現在、こうした事業で支援させていただいているスタートアップをご紹介します。5 ページ目をご覧ください。こちらは、ファンドサポート事業で支援している事業のうち、地域の大学発スタートアップでございます。株式会社 ANSeeN は、静岡大学発スタートアップでX線を検出するセンサー等の開発事業者です。大学で長年研究されていた半導体技術をベースに、高解像度で被ばく量が少ないイメージセンサー、そしてそのイメージセンサーを搭載したX線カラーカメラ等を開発製造されています。株式会社はままつメディカルソリューションズは、浜松医科大学発スタートアップです。立体外視鏡等の医療機器の開発・製造等をされています。立体外視鏡は、カメラとビューワーを独立させたことで小型化などを実現していると聞いております。また、医療機器製造販売の資格も取得されています。補足になりますが、ANSeeN の会社の左上に J-StartUP CENTRAL というマークを入れてございます。J-StartUP 企業とは、経済産業省がグローバルに活躍するスタートアップを創出するために潜在力があるとして選定をされた企業です。そして、J-StartUP CENTRAL は、J-StartUP の地域版として、浜松地域及び愛知県内に本社があり、ビジョン、先進性、独創性、成長性、国際性等で優れているとして選定をした企業となっ

ております。

6 ページをご覧ください。こちらのページでは、大学と協業しているスタートアップをご紹介します。株式会社 I'mbesideyou は、表情、音声、姿勢等を複合解析するマルチモーターAI の動画解析サービスを提供しているスタートアップです。もともと教育分野でスタートとしたスタートアップですが、現在、問診支援システム等で浜松医科大学とも共同研究に取り組んでいます。また、インド工科大学ハイデラバード校との共同研究にも取り組まれています。株式会社 Magic Shields は、転倒による大腿骨骨折が原因で寝たきりになる人をゼロにすることをミッションに掲げ、歩いたときは硬く、転んだときだけ柔らかい床とマットの研究開発、製造に取り組まれています。東京医科歯科大学等と共同研究し、骨折予防効果のエビデンス構築にも取り組んでいます。この 2 社についてもファンドサポート事業で支援をしております。

7 ページ目をご覧ください。このページでは、実証実験サポート事業によって支援させていただいたスタートアップをご紹介します。株式会社エクサウィザーズは静岡大学発スタートアップで昨年 12 月に IPO され、東証マザーズ、現グロース市場に上場されました。AI プラットフォームを用いた顧客の AI/DX の推進や、社会課題解決のための AI プロダクトを提供されています。浜松市では、家族介護向けアプリを用いて認知症の家族介護者の負担感減少の実証に取り組まれました。続いて、株式会社 Cien です。チャットを使ったデジタル接客サービスやがん検診受診率向上サービスを提供されています。浜松市では、若年層の子宮頸がんの検診受診率の向上を課題に掲げておりました。それに対し、同社から提案をいただき、聖隷クリストファー大学等と連携し、若年層の子宮頸がん受診率向上について実証をしたという事例になります。同社につきましては先程ご紹介しましたトライアル発注認定事業で、今年度認定させていただいております。

浜松市では愛知県、名古屋市と共に、国からスタートアップエコシステムグローバル拠点都市の 1 つに選定されております。国の支援も得ながら、スタートアップ政策を加速させていくというところでございます。説明は以上です。

### 3 議事

#### (3)

(浜松市長)

議事の 3 の意見交換に移ります。両学長のご説明、並びに、浜松市のスタートアップ施策の説明を踏まえまして、ご質問ご意見等ございましたらご発言をお願いいたします。

(次世代自動車センター長)

今までこの会議に参加させていただき、名前が浜松地区大学再編という話であり、まずはできることからやりましょうということで、それぞれ浜松地区も静岡地区も動き出しているなという感じもあります。また、今年の 4 月から静岡大学の経営協議会や学長選考・

監察会議にも参加させていただいており、いろいろな意見も聞いている中で、今日の話は少しがっかりした感じです。それぞれ、日詰学長も今野学長も法人統合・大学再編の言葉は出るが、最初の法人統合に関係する言葉が少ないです。それぞれの学長が、これから法人統合に向けてどうやって進めていこうとしているのかというところが、私自身はまず法人統合は、再編との時間差がどのくらいあるにしても、いずれにしても法人統合ということは、最初に考えなければいけないことかなと思っています。その法人統合に関係するところが、ちりばめられているが、何となく合っていないところがあり、聞きようによっては全然違うのではないかということもあり、これから進めていくためには、何を最初にするのかという、法人統合を本当に実現するのであれば、どういうふうに歩み寄っていくのかという議論が必要ではないか。そうしないといつまでたっても平行線になってしまうということで、両学長の意見を確かしたい。法人統合についてどのように考えていらっしゃるのか、法人統合と大学再編の位置付けについて、どうやったら歩み寄れるのか、ここですぐには言えないとしても、どの点が違うから寄らないと話し合いにならないというところを明確にさせていただいた方が、両者がいつまで平行線にならないよう何とか打開していただきたいというのが私からの意見でございます。

(静岡大学学長)

私も就任以来、学内の教員、様々な同窓会をはじめとし、OB、OGの方々、地域の財界の方々や行政機関の方々とも意見交換をしてまいりました。当初のところは相当厳しい意見が多かったところがございますけれども、やはり何回もお会いして話をしていく中で、基本的に法人統合、大学再編に向けて、まずは法人統合を進めるべきではないかという、そういうご理解が進んできていると理解しております。したがって、まずは法人統合をするということについては、私はかなり前向きに考えていきたいと思っております。その後、大学再編に向けての時間はどうなのかは、基本的に法人統合をする中で、いろいろなルールやシステムが統合されまして、それによって一定程度の効率性が生み出されてくるのだらうと思いますので、その効率性を確認することも必要だらうし、これは大学経営だけでなく、いろいろな企業、行政経営においても、同じことだらうと理解しておりますけれども、それと同時に、次の改革をどうするかという議論は当然していかないとはいえないと考えております。その中に、当然、大学再編、大学統合ということが入ってくると思いますので、この大学再編をして、いろいろな利益、メリットが生み出されてくるということが確認されて、大学統合より前にすべきだということが明確になってくるのであれば、法人統合の後に大学再編をするということも選択としてあり得るだらうというふうに考えております。その時期的なものについてなかなか今、明確に申し上げることはできませんけれども、そういうプロセスを踏んでもいいのではないかというのが、私の今の考え方でございます。簡単ではありますが、以上です。

(浜松医科大学学長)

大分、合意書から後退した感があると思います。基本は合意書にある、再編前提として統合するというので、ただ統合しても仕方がないのであり、何が生まれるのか、どういふことが生み出されるのかが非常に大事であります。本学は非常にパフォーマンスもよく、中には今のままでいいのではないかという声も随分あります。経営状況も良好であり、高度な医療も極めて安全に行っています。全国の中でも、評価の高い単科医科大学としての位置付けは確固たるものです。ただ、今後地域貢献を更に行い、そして医療が MGH や MIT のような更に産業にも広がりを持たせるために、ずっと一緒にやってきている浜松高等工専を母体とする浜松キャンパスの先生方と、更にそれを加速することによっていろいろな可能性が出てくるだろうと、新たな産業ができるだろうと希望に満ちた新大学を作りたいという思いが、一番根っこにあるわけです。統合だけするのであるのであれば、東北地方・四国地方みんな一緒になればいいかといえば、そのようなことはないわけです。東工大と医科歯科大学、一橋大学と一緒にしたらもっと良いものができるかといえば、そんなことはなく、それぞれの大学が特色をもってやっているのだから、世界に冠たる東工大、医科歯科大、一橋大であるわけで、東大は東大、京大は京大、それは多学部を持ちながら、名古屋大学もそうですが、世界と勝負しているわけですね。我々は統合して学部をたくさん作り、それで目指せ東大なのか、目指せ京大なのかではなく、その中で何をするのが私は一番大事だと思います。静岡大学が今度新しい学部を設置される予定ですが、再編統合を前提として文部科学省がお認めいただいたと私は思っています。そうであれば、静岡地区大学はまさに日詰学長の指導の下、主導的に新たな静岡地区大学の形態ができてきており、競争力のある大学ができつつあると思います。次は、浜松地区が同じように世界と勝負できるような付加価値を持つ大学を作っていく、そして競争力のある両大学が、一つの機構として一つの法人となる、これが理想であり、これが合意書の趣旨だと思います。この基本的な考え方は、我々は何も変わっていないことだけは申し上げたいと思います。

(次世代自動車センター長)

今まで相当な回数、6月是一对一でじっくり話をしたと聞いているが、今の話ではいつまでも平行線だと感じています。私が聞いたかったのは、どうやったら歩み寄れるのかという話をしなければ、本当に進まない話になってしまうということを危惧しています。歩み寄るための両学長に考えてもらうことをお願いしたい。

(浜松医科大学学長)

日詰学長とは十数回、毎月のように話し合いをしてきました。二人がいつもけんか腰かというところではなく、和気あいあいと将来のことを話しています。今後の中身についても二人では突っ込んだ話をしているが、相違点、課題をこの場ではっきりされることは良いことだと個人的には思います。

(静岡大学学長)

今野学長とは親しく話をさせていただいているが、今野学長が描いているビジョンは我々にとっても重要な部分があります。もう一つ申し上げたいのは、浜松が持っている大きなポテンシャルと静岡のポテンシャルが分かれたままでは、好ましくないだろうと思っています。いつかはどこかで、一つになっていくということを目指して良いのではないかと考えております。例えば、DX とか半導体、蓄電池は今後成長分野だと教育未来創造会議では位置付けられているわけですが、これからそういう分野にお金が入っていくことが考えられます。我々の大学では、工学部や情報学部がDX とか半導体の人材の受け皿となる可能性があります。受け皿のところを伸ばしていくことが、浜松市への貢献になると思っております。裾野を広げていけば、浜松医大の医学部とも連携することにもなると思います。その青写真を今野学長とどのように描けるのかが今後の議論、検討の対象となります。その部分が見えてくれば、歩み寄れるのではないかと思っております。特に静岡キャンパスの場合はグリーン科学技術研究所があり、浜松には伝統のある電子工学研究所があり、電子工学研究所ではDX や半導体を見据えた教育研究の大きな拠点となり得ると考えます。グリーン科学技術研究所はGX の部分で先端的な研究の拠点になり得るものです。そういうものを融合することによって、いずれは静岡県、浜松市に様々な形で貢献できると思います。静大、医大はいろいろなものを持っていることから両者をつないでいく発想が極めて重要です。

(浜松市長)

日詰学長に質問したいが、大学が再編されても今の話は十分可能。我々が目指しているのは、医学部、工学部、情報学部が一緒になって、工学部、情報学部がバージョンアップすること。これは、今おっしゃられたことと事実背反する話ではないです。更に後押しするものです。日詰学長から、我々が目指している浜松地域としての未来創造と大学再編の強い思い、構想に対して、静大も工学部、情報学部をお持ちであることから、ここに責任を持っていただく必要があると思うが、我々の構想に対して、今でもあまり、ご意見をいただけないので、浜松の未来をどう考えているかお伺いしたい。

(静岡大学学長)

浜松市は産業を創出、生み出すことにおいて、極めて大きなポテンシャルを持っています。それは、工学部や情報学部にとどまらない専門領域を越えるなかで、新しいものを生み出す、シナジー効果を生み出すことが重要。そこに浜松医大との関係ができあがって、強固なものとなりつつあることについて、私は否定するつもりは全くないし、更に進めるべきだろうと思っております。加えて、今求められているのは、もっと広く裾野を広げていくことだろうと思っております。

(浜松市長)

再編が進めば、裾野を広げる意味でも大きなエンジンになると思っておりますが、いかがですか。

(静岡大学学長)

それは否定しておりません。

(浜松市長)

ということは進めるという理解でよろしいですか。

(静岡大学学長)

それと同時に、もっと大事なことは、そこにとどまっていたはいけないのではないかと  
いうことです。

(浜松市長)

そこだけにとどまるとは言っておりません。強力なエンジンができるので、日詰学長がお  
っしゃる裾野を広げるということもできます。我々浜松地域が熱い思いを持っているのに、  
ずっと否定されているように思えます。我々の思いはどう汲んでいただけるのか。我々の  
描いているビジョンについて、否定するのか、どうでしょうか。

(静岡大学学長)

否定していると捉えられるのは心外です。

(浜松市長)

であれば時間がありません。この一日、一日も人口が減っていき、世の中が動いていく  
なかで、我々のスピード感と申し訳ないが日詰学長の考えが全くかみ合いません。こんな  
ことをしていたら、浜松地域が衰退して行ってしまいます。その危機感に対して、日詰学  
長はどのように考えているのか。我々はスピード感をもって決断してほしい。

(静岡大学学長)

分かりました。それは受け止めるが、我々は静岡と浜松に拠点があり、双方の意見を聞  
く必要がある。そのバランスを欠いてしまうと前に進めなくなってしまいます。

(浜松市長)

それをいつまでも続けていると 10 年も 20 年も何も進まないまま、無下に時間を費やす  
ことになります。

(静岡大学学長)

市長のご認識は承りました。

(浜松市長)

このままいくと何も生み出さずに終わると思う。

(静岡大学学長)

そうとも考えていない。我々としても地方創生枠があるわけで、今野学長の資料の最後にもあったように応募することはマストだと思います。その応募の仕方、DX なのか半導体なのか、どうやっていくかは重要であり、待ったなしでやっていきます。

(浜松市長)

細かなことではなく、我々は大きなビジョンに向かって突き進んでいるわけですが、それに対してどのようにお答えいただけるのかを聞いています。

(静岡大学学長)

再編を否定しているわけではなく、基本的にはまず法人統合はあるだろう。それを順番にやっていくことが、一番早道だろうと思っています。

(浜松いわた信用金庫会長)

企業家の立場からすると、法人統合するというのは何のためにするのか。私共も 3 年前に信用金庫の合併をしたが、地域を発展させるためには一つ一つの信用金庫では力が足りないことから体力を增強し、人材を育て、地域に貢献したいということがあった。日詰学長はスケールメリットや世界に冠たる大学を作りたい、という漠然とした形でおっしゃるが、どこかで決断してやっていくことが重要です。立場があることは理解するが、市長のおっしゃるとおり、このままでは時間がもったいない。議論している満足感で終わってしまします。望月次世代自動車センター長、いかがですか。

(次世代自動車センター長)

まったくそのとおり。決断するため、決断のためのヒントを得るための会議だと思えます。日詰学長は静岡大学をどうするのかリーダーシップを発揮する立場にあり、それが問われていると思います。その責務を果たしてほしいというのが我々の思いです。

(浜松いわた信用金庫会長)

大学の問題ではなく、浜松、静岡、県の地域の人づくりをどうするかというのが基本に

あると思います。そのためにどういう仕組みがいいのかということで浜松地域は浜松医大と静大の工学部、情報学部が専門的にやって産業の発展に貢献しよう、静岡地域はこうやって対応しようという都市をどうしようということが議論として重要と思います。

(静岡大学学長)

御室会長のご指摘は理解できます。私が苦心しているのは統合・再編に対してネガティブな考え方を持っている方がいて、そういう方々に丁寧に説明していくことが必要です。将来に向けて本学が進む方向について、一定程度の了解を得なければ、分裂につながる恐れがあります。そういったことは避けなければいけない。法人統合しても両者が向き合わない状況になってしまうと統合の意味がなくなってしまいます。そこを理解してもらうための取組を進めています。県全体の発展、中でも浜松地域のため、浜松において連携関係を作っていくことは当然と理解しています。

(フォトンバレーセンター長)

今日は座長が、がんばって発言していますので、私が言いたいことも大分おっしゃっていただきました。スピード感という話がありましたが、それは非常に大事です。法人の統合は、名古屋大学と岐阜大学が先陣を切っております。私は名古屋大学の評価を担当しているので内情をよくお聞きしているが、最初にやったのでとても大きな利益を得ています。そのために統合・再編するわけではないけれども、スピードを持ってやっていくのは非常に重要だと思う。現時点で既に2年の遅れと、今野学長の資料にあります。統合・再編にネガティブな人たちに説明をしなければいけないのは分かるが、そのために浜松医大は静岡キャンパスの各学部と研究情報交換会を開くという努力をされている。十分な時間は、あったはずなんです。その間に、静岡大学がどのように動いていたのかが見えない。

これまでの遅れを許容していたのは、静岡キャンパスの方が、この統合・再編案だと強みを持っている工学部、情報学部を取られるだけで、静岡キャンパスの将来が見えないというのが、ネガティブな人たちの代表的な意見だったと思う。それに対して、日詰学長は静岡キャンパスに新学部を設置して発展する姿を描いてこられた。それをやるまで待ってくれ、それまでは時間を使うのはやむを得ないところだったと思っている。

新学部の構想がはっきりして、設置審に申請も出しているわけですね。もはや静岡キャンパスに学部も作って、その先学部の再編みたいなことも考えていく必要があるのかも知れませんが、それはやっていただければ良い。新学部の構想がまとまって静岡キャンパスの将来像が見えたところで、浜松をどうするのか、というのを急いでやらなければいけないタイミングなんです。これまでは再編した後の静岡キャンパスをどう発展させるのか描けていないので、再編ができなかったんじゃないかと。それができたでしょ、と。静岡キャンパスの将来像は、新学部の設置によってある程度ははっきりした。だったら迷うことなく、最初の合意書のとおり進めるタイミングじゃないですか。今まではしょうがなか

ったけれども、もう待てないタイミング。今やらなきゃいけないタイミングなんじゃないですか、というのがみんなの思いではないか。

静岡大学と浜松医科大学の統合の話し合いがあったのはこれで2回目ですよ。1回目がどういう形でぼしゃったかは、日詰学長はご存じだと思う。統合・再編して、力を合わせて地域の大学としてやっていくからには、強い信頼関係が築けていないと何も起こらないですよ。信頼関係を損なわないように、合意書に基づいて行動する時期、タイミングが今だと思うのですが、どうでしょうか。

(静岡大学学長)

皆様の思いはそこだろうというのは、私も理解はしています。伊東先生は大学の状況をよくお分かりだと思いますが、同じ方向を向いて信頼関係を築くことがとても大事だと思っています。法人統合・大学再編に、まだいろいろな意味で納得がいかないという状況を、私としてはなるべくなくしていく努力をしている。いつまで時間がかかるのかというお叱りはあるわけですが、その辺りをきちっとやっていかないと、どこからか綻びが出ておかしな方向に行ってしまう。それはぜひとも避けたい、というのが私の思いであります。今日は皆様の熱い思いを受け止めておりますので、それを基に学内で調整していきたいと思っております。

(フォトンバレーセンター長)

御室さんもおっしゃったが、どこかで決断しないと。100%賛成の状況は、絶対に作れない。私はそのタイミングは今だと思っているんですが、日詰さんがまだ話を続ける必要があると言うなら、最低限工程表、タイムスケジュールを示していただかなければ、いつまでも今の状況が続くのではないかと危惧する。

(静岡大学学長)

大事なご指摘だと思うので、早速私の方で考えたいと思います。

(浜松市長)

我々も先が見えない中で、どう進めるのかといういらだちがある。工程表をお示しいただければ、我々としてもそれに向けて努力していく。大事なご指摘だと思います。

(次世代自動車センター長)

工程表もいいが、日詰先生の進め方として、調整してからビジョンを出すのではなくて、ちゃんと先にビジョンを出さないと、どこへ行くのか分からないのはいけない。工程表と同時に、まずビジョンを作ることをやって、こういう考え方でいく、という話が出てこない、工程表の議論にもならないので、合わせてぜひビジョンを明確にすることをお願

いしたいと思う。

(フォトンバレーセンター長)

それはある程度、合意書を作った段階でビジョンを持っていたはず。

(次世代自動車センター長)

静岡大学としての絵もちゃんと描いてもらわないと。静岡の人と調整があって時間が必要というところも含めて出していただかないと。

(浜松市長)

静岡キャンパスと浜松キャンパスのそれぞれの将来ビジョンですね。そこが明確になってくれば、結論に進めるんじゃないかと思う。

(浜松いわた信用金庫会長)

浜松側のビジョンは明確になっているけれども、静岡大学を中心にして浜松医科大学を統合していくビジョンは、明確にまだ合意形成がされていないわけですね。

(静岡大学学長)

もう一度よろしいですか。

(浜松いわた信用金庫会長)

県全体として、静岡大学を中心にビジョンが明確に描けているかどうかということ。

(静岡大学学長)

静岡大学は、静岡県における国立大学であり、静岡県全体を視野に入れながらこれまで発展してきた。そこもビジョンの構想には入れないといけないと思っています。手薄なのは東部地域。これからどういう対応が必要か、これもビジョンに入れないといけないと思います。

ただ、浜松キャンパスは、これまで時代を先取りするような取組をしてきているわけですね。それに対して学部からしかたないが、静岡キャンパスは基礎的な研究がベースになっていたこともあって、華やかさという点では、浜松と静岡は比べ物にならないくらい差があると言えらると思います。新しい学部が他の学部を有機的につなぐ構想もありますし、そこから浜松キャンパスや浜松医科大学と連携する可能性が全くなくはないわけで、そういうことを全部含めたビジョンを考えなければいけないと思っています。

(浜松いわた信用金庫会長)

大変失礼な話になるかも知れないが、今日このままでいくと、また先に延びてしまう危

惧が非常にしているんですけどね。皆さんその辺りはいかがですか。

(静岡大学学長)

要は日にちを切れという話ですね。これはやはり私だけではできないことなので、夏休み中にやる、ということかと思います。

(浜松いわた信用金庫会長)

最大の経営者は日詰学長なわけですから、最後の決断はお一人でされるのが普通ではないでしょうか。なるべく反対を説得して、というふうにやると物事は前に進まないんですよ。反対といっても悪意のある反対ではなくて、善意の反対ということも当然あり得ますけど、そこで方向性を決断、こうだと決めてしまわないと、前に出られないのではないかと思います。

(静岡大学学長)

おっしゃることは理解できますが、基本的には法人統合・再編について、今まで私自身が明らかにしてこなかったことを、今日ある程度お話をさせていただいた。そこをどう理解して、更には今日お話を聞いた中でどう変えていくのかということだと理解しています。その中で、ビジョンの提示、工程表の策定はここ数か月の間にはやります。

(浜松いわた信用金庫会長)

数か月というと、また数年になってしまいますからね。工程表ありきではない。骨組み、大系をどう作るか。それがないと前に進まないと思う。

(浜松市長)

9月か10月くらいに、もう一度会議を開催させていただいて、その時に精緻なものではないかもしれませんが、静岡キャンパスの将来ビジョンと浜松キャンパスの将来ビジョンを踏まえた上での工程表、スケジュールを学長からお示しいただければ議論が一步進むのではないと思うが、いかがでしょうか。

(静岡大学学長)

基本的にその時期までには、努力させていただきます。ただ、9月何日までとか10月何日までとかは難しいけれども、その方向で議論を進めることは理解しました。

(浜松市長)

今野学長、よろしいですか。

(浜松医科大学学長)

非常にオープンな議論で、私一人の力では何ともならないところを、いろいろご意見を賜って大変ありがたかった。

(浜松市長)

今日は、両学長からも委員の皆様からも、本音ベースでいろいろな意見を頂戴して良かったと思う。だいたい目途として9月か10月くらいに再度この会を開催して、先ほど課題となった両キャンパスの将来ビジョンと工程表について、日詰学長からご提示いただいて議論をするということでしょうか。よろしいでしょうか。

(次世代自動車センター長)

(静岡大学の) 経営協議会に出ておりますので、そういう場に日詰学長の考え方が出るかどうか、ちゃんと見させていただきます。

(浜松市長)

お時間となりましたので、次回秋口に開催させていただくということで、今日のこの会は締めたいと思います。皆様ありがとうございました。

#### 4 その他

(事務局 (浜松市企画調整部長))

次回の開催時期につきましては、9月から10月にかけて事務的に今後調整させていただきます。

#### 5 閉会

(事務局 (浜松市企画調整部長))

これもちまして、第4回の会議を閉会いたします。ありがとうございました。